

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201064
法人名	医療法人社団 醫光会
事業所名	グループホーム ビオラ
所在地	群馬県高崎市矢島町449-2 (電話) 027-360-5677

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年5月27日

【情報提供票より】(21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 3.8 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り
	1階建

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	光熱水費	500円×日数
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	16 名
要介護1	4 名	要介護2	10 名	
要介護3	3 名	要介護4	0 名	
要介護5	0 名	要支援2	1 名	
年齢	平均 83.9 歳	最低	60 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	駒井病院 富所歯科 井上皮膚科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者同士の会話や笑い声につつまれたホーム内は広々としており、のびのびと生活している様子が伺える。法人として職員教育に力を入れており、職員は利用者の残存能力を引き出せる支援ができることに喜びを感じながら仕事をしている。また、グループホーム独自の理念を掲げ、地域交流を一層広めて行きたいという意識を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を職員で検討し、地域を意識した活動にも取り組むようにグループホーム独自の理念を見直した。また、今回の自己評価は職員全員で取り組みまとめている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、全職員が自己評価に取組んだ。管理者もその結果から職員の考えを再確認することができた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催も3年目をむかえ、定着しつつある。ホームからの報告が中心ではあるが、参加者から出された意見は運営に生かすよう早めに検討し対応している。</p>
重点項目③	<p>家族に意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との信頼関係を重視し、電話連絡や面会時に利用者の生活の様子や状態をこと細かく伝えている。家族からも気軽に意見を出してもらえるよう働きかけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民とは日頃から畑を介して交流が続いている。月に一度の公民館での活動に参加しているが、今後はさらに区長や民生委員などにも協力を依頼しながら、地域との交流を広げていきたいと考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を受けて、地域を意識した活動に取り組むよう職員で相談しながらホーム独自に理念を作り上げた。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で相談して作り上げた理念をいつでも意識できるよう事務所に掲示している。また、会議等でも共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	建物の前に広がる畑を通じて隣人とは長年のご近所付き合いをしている。さらに民生委員を中心にした地域活動に参加したり、ホームの行事に招いたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は職員で検討し、ホームの理念の見直しを行い、今回の自己評価も職員全員で取り組みまとめた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も3年目を迎え定着してきた。ホームからの報告が中心ではあるが、参加者から出された意見には早期の対応をするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外にも書類の提出や相談などに出向き、いつでも話し合える関係が持てるよう努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは電話や面会時に生活面での変化や病状を細かく報告し、信頼関係を築けるよう心がけている。3ヶ月に1度新聞も発行し、イベント時や日常生活で見られる表情を写真でも知らせている。家族と利用者が良好な関係を継続できるよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも参加してもらっているが、日頃から気軽に感想や意見を出してもらえるよう面会時などに声をかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動のため、顔なじみの職員がほとんどではあるが、改めて一人ひとりに紹介し安心してもらえるよう心がけている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として統合教育が柱となった委員会が組織化されており、1か月に2～3回の教育活動が実施されている。外部研修にも参加しており、職員の育成に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に参加し、研修や交換研修に協力しサービスの質の向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域からの入居がほとんどのため、利用前に見学してもらうようにしている。家族だけの時は、ホーム側が出向いて本人に会うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の抱えている思いと向き合えるよう傾聴と受容に努め、料理や裁縫などを教えてもらいながら、支え合っていける関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向をくみ取るために日常の会話や表情に気をつけながら、家族からの情報を職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度カンファレンスを開き職員の日頃の意見や家族本人の希望と合わせて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しの他に状況の変化に応じて介護計画は見直している。毎日ミニカンファレンスを開き、介護内容の実施についてチェックをしている。	○	ミニカンファレンスで毎日介護内容のチェックはしているので、介護計画についてのモニタリングも月に1度は実施していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の散歩や買い物に応じたり、併設されている老人保健施設のリハビリを希望者は受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。月に1度は協力病院の医師による往診と週に1度の訪問看護を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の病院が隣接しているため、状況に応じて直に受診できるが、重度化や終末期に向けた指針も作成しており、入居時に説明し同意も得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を守りながら記録を扱っている。利用者への言葉かけにも誇りを気づかいながら行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活のペースを大切に気持ちよく過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に楽しみが持てるよう、準備や後片付けなども一緒に行い、職員も利用者とともに会話しながら食卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、それぞれの希望に応じた入浴支援をしている。現在、夜間の入浴希望者はいないが、いつでも対応できるよう体制はとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や裁縫、ハーモニカ演奏など気晴らしや楽しみを見つけてもらえるように、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩の他にリハビリや日常的な日光浴も自由に楽しんでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の弊害を職員は理解し、日中は鍵はかけていない。利用者は庭にも自由に出られ、洗濯物を干したり畑で隣人とも交流している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での他にホーム独自にも避難訓練をしている。地域からの協力は運営推進会議を通してお願いし、参加してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表をもとに確認し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清潔に保たれており、食事をするスペースや寛ぐスペースがあり、各自好きな場所でゆったりと生活できる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性が活かされた居室は、思い思いの家具を持ち込んだり写真などが飾られ、居心地良く過ごせるようになっている。		